

都市と農山漁村が支え合うネットワーク 森林保全から構築する持続可能な社会

2026年3月18日(水)、認定 NPO 法人 JUON(樹恩) NETWORK 理事・事務局長 鹿住貴之さんを講師にお迎えし環境・エネルギー学習会を開催しました。日本の森林の現状や問題点についてクイズを交えてわかりやすく講演していただき、都内生協・市民団体10組織17名の皆さんが参加されました。



鹿住貴之さん

JUON NETWORK について

1998 年4月設立の特定非営利活動法人です。都市と農山漁村を結ぶネットワークとして間伐材・国産材の普及、ボランティアによる森林整備活動や農家支援、環境教育を実施し、体験・交流・応援をキーワードに持続可能な社会を目指しています。

農山漁村地域とつながるきっかけ

大学生協が、過疎地域の廃校となった学校を合宿施設やセミナーハウスとして再活用したことに加えて、阪神淡路大震災の仮設学生寮建設の際に、林業関係者と出会い協力があつたことが設立の大きなきっかけとなりました。

日本の木材自給率は42.5%

日本の森林率は国土面積の約67%。1960年代に植えられた杉やヒノキは早く真っすぐに育ち、植樹から50~60年が経過した現在は使うチャンス の時期です。ゆえに木材自給率は42.5%(2024年度)に高まっています。自然は、成長するよりもゆっくりなスピードで利用すればいつまでも使えます。木は持続可能な資源なのです。

なぜ、日本の森林はあれているのか？

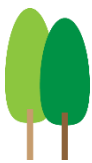
- ・人工林(木の畑): 過疎化や高齢化、海外の同品質の安い木材
 - ・雑木林: 森を利用しない生活 エネルギー革命や化学肥料の使用
- 【原因】日本人の暮らしが、森から離れてしまった

森林の公益的機能

- ・水源涵養機能・・・雨水を素早く浸透させて保水しゆっくり川へ流す
- ・山地・災害防止機能・・・根を広げ土をしっかりとつかみ流れにくくする
- ・生活環境保全機能・・・大気の浄化、地球温暖化防止
- ・保健文化機能・・・森林浴、キャンプ、森林セラピー

森林保全活動「樹恩割り箸」

- ①森林を守るために間伐材・国産材を使用
- ②障害者の仕事づくり
- ③食堂の排水を減らす・・・学生に国産材を使ってほしい！
つくる人の顔が見える安全な箸、都市と山村を結ぶ「架け橋」



参加者の声

◆体験して理解を深め里山に関わる人材を増やす必要性を強く感じた。 ◆里山が持つ大切な資源を無駄なく活用し、守っていくことが重要。 ◆手入れすることで、防災になぜ役立つのかがよく理解できた。

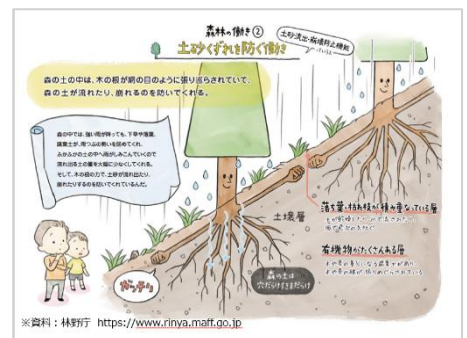
クイズで理解を深めました!(抜粋)

Q.日本の森林率は先進国で何位？

Q.国内1位は何県？

・東京都43位 森林率36%

Q.木でできているものはどれ？



【講師資料抜粋】

